

第7回 新時代とやまハイスクール構想検討会議 議事概要

1 日 時 令和8年1月20日(火) 11:00~12:00

2 場 所 県庁4階大会議室

3 委員出席者 新田 八朗 廣島 伸一 坪池 宏 大西 ゆかり
黒田 卓 牧田 和樹 松岡 理 伊東 潤一郎
佐伯 真未 品川 祐一郎 白江 日呂雄 杉木 貴文
南部 初世 林 誠一 本江 孝一 松山 朋朗

4 会議の要旨

司会が開会を宣し、知事が挨拶した。

知事挨拶

(知事)

冬型の気圧配置が強まる中、皆様には、ご出席いただきありがとうございます。

今回が第7回になります。昨年の5月にこの検討会議を設置して以来、これまで6回にわたって集中的に、そして熱心に議論を続けてきていただきました。令和20年度までに実現を目指す県立高校の姿、また新たに設置する学校の方向性、そして大規模校あるいは職業系専門学科など幅広い事項について皆様の貴重なご意見を賜ってまいりました。心から感謝申し上げます。

お陰様をもちまして昨年の8月には、実施方針(素案)を取りまとめることができました。それを、各地で説明をするなどしてきましたが、いろいろなご意見をいただき、そういったご意見を踏まえて、柔軟に必要な方向転換などを織り交ぜながら、ここまでまいったところです。

本日その修正した案を皆さんにお諮りをして、その議論を踏まえ、次回の総合教育会議において、構想の羅針盤となる実施方針を策定したいと考えています。策定以降は、昨年11月に国が公表した「高校教育改革に関するグランドデザイン2040」も踏まえながら、社会情勢の変化や今後の中学校卒業予定者数の状況などに応じて、機動的に見直しをさらに行いつつ、構想を着実に推進していきたいと考えています。

引き続き、「こどもまんなか」の視点をぶらすことなく、基本目標である「新時代に適応し、未来を拓く人材の育成」に向かって、忌憚のないご意見をいただければと思います。よろしく申し上げます。

議事事項

○「新時代とやまハイスクール構想」実施方針(案)について

資料に基づき事務局から説明した。

(委員)

今ほど事務局の方から説明をさせていただきました。これまでの議論を踏まえて、各方面から、特に大規模校の規模、令和 20 年度の学校数について、ご意見をいただきました。これらの数値については、今後の生徒数の減少を考慮しつつ、「こどもまんなか」の視点や高校としての教育機能、教育効果の観点から一定規模を維持することを基本とし、さらにスケールメリットを生かした大規模校も含めて、生徒の皆さんに多様な選択肢を提供することを目的に、これまで議論を重ねて設定した現時点での目安の案です。

大規模校の規模や数値を具体的に示す必要がないのではないかというご意見もいただいたところですが、実施方針を羅針盤として位置付ける以上、今後さらに議論をする上でも、学校数や学校規模についても 1 つの目安としての数値は必要と考え、定めさせていただきました。こうしたことも踏まえながら各委員の皆様からご意見をお願いします。

(委員)

まず内容については、これまでの様々な方々との議論や意見が集約されていると思えました。その上で、3点お願いします。

1点目として、今回、「はじめに」に国のグランドデザインのことが追加されました。それが「本県の構想と軌を一にする」と記載されていますが、どのような内容や方向性が同じなのかお聞きしたいと思いました。

2点目として、3ページの普通系学科の「STEAM」に「とやま学」とありますが、地域、ふるさとを学ぶことはすべての高校でも実施した方がいいと思います。卒業後に県外に進学して、そのまま富山に帰ってこないことが課題としてあるので、こういった課題解決の1つになると思いました。

3点目として、18ページの同窓会の記述で、各期の設置方針公表後に意見を聞くとのことですが、参考までにどのような懸念をされているのかお聞きしたいと思えます。

(事務局)

最初のご質問である「国のグランドデザインと軌を一にする」ことについて、文科省のホームページなどでも掲載されていますが、文科省では、高校教育改革に関する基本方針として、2040年を目標としたネクストハイスクール構想を公表したところです。

その視点が3つ示されており、視点1は、AIに代替されない能力や個性の伸長ということで、探究的な学びや実践的な学びへの転換や主体的に学び人生を切り拓く教育を推進する、というものです。

視点2は、我が国の社会経済の発展を支える人材育成として、産業イノベーション人材の育成が必要であるということや、新時代を担う人材を育成するため、高校の特色化や魅力化が必要である、というものです。

視点3は、一人一人の多様な学習ニーズに対応した教育機会、アクセスの確保ということで、不登校児童生徒の増加なども踏まえ、高校でも柔軟で質の高い選択肢の保障が必要である、というものです。こうした視点が示されましたが、私どもが検討している内容とかなり共通する部分もあり、目標としている年度も非常に近いため、国の動きにも対応しながら、新時代ハイスクール構想を進めていきたいと考えているところです。

「STEAM」の教育内容にある「とやま学」については、若手教員からの提言などでも案として示されたものを例として記載していますが、教科横断型の学習科目として提案をいただいております。委員ご指摘の通り、こうしたふるさと教育に通じる部分は、他の教育でも必要ということは、ごもっともだと思っています。今後の学校づくりの中で、そうしたご意見を踏まえながら検討を進めていければと思います。

3点目の同窓会の記載の部分については、10月の総合教育会議で同窓会の取り扱いについても実施方針に盛り込んだ方がよいのではないかといったご指摘を受けて追加したところです。実際にはこれまでの再編でも、同窓会の取り扱いについては、各高校にご意見をお聞きしながら、検討し対応されてきているので、今後もそうしたことが必要であると考えています。

(委員)

実施方針については、基本的に賛成の立場です。

文言についてですが、追加された「はじめに」の1番最後の段落の冒頭に、「誰も経験したことがない人口減少社会を迎える中でも」とありますが、迎えるというよりも実際すでに人口減少社会であると私は認識しており、そういった意味では、「人口減少社会の中でも」と書かれてもいいと感じました。

また、1ページの「県立高校を取り巻く状況」の中の2番目のポツの2行目中ほどに「多様な教育ニーズへの対応も必要になるなど」とありますが、そこに明記されているニーズについては、今始まったことではなく、これまでもニーズがあり、それへの対応もしてきておられると私は認識しています。そういった意味では、今急に必要になると読み取られるよりは、こうした「教育ニーズへの対応など」と単純に書かれてもいいと感じました。

3ページですが、普通系学科の特色ある取組み例として、非常にたくさん取り上げられています。もちろん例ですので、具体的な学校でどのように実施するかは今後の検討だと思いますが、ただ、こうした取組みの実施には、十分な教員が必要だと思います。本来であれば国の教員定数改善計画が必要な話だと思いますが、まさに今働き方改革と言われており、これに逆行しないよう、実際に実行される先生方の教員定数の確保や配置をぜひお願いしたいと思います。

もう1つ、7ページの整備方法ですが、今回新たに加えられた、大規模校の新築のところに既存施設の活用を合わせて検討するということや、中規模校のところに複数キャンパス制についても検討を行うということが、新たに加えられたので、十分検討していただければと思います。そういった意味では実施方針には賛成しています。ただ、以前にも申し上げましたが、大規模校の理念を考えると、教育活動がしっかり実施できるような方向性、子どもたちの教育のためにという観点を忘れずに検討いただきたいと思います。

複数キャンパス制については、まだ具体は示されていませんが、生徒たちの実習施設への移動や部活動などのために別のところに移動する必要があるなど負担が増えることが見込まれます。こうした状況は生徒にとっても学校を選ぶときの1つの選択肢、教育の条件になると私は思います。生徒に選ばれる魅力ある学校になるように、そういった観点を忘れずに検討していただきたいと思います。

(委員)

私は3つございまして、まず4ページのところの教育内容について、今ほども話があった通り、多様な例があり、高校教員の方々にとって非常に難しい部分もあると思います。昨年末、ある高校の探究活動に呼ばれて、アクティブラーニングの対応をさせていただいたのですが、対応される先生のお話を聞いていると、生徒の興味によっては外部人材を頼らざるを得ないテーマもあり、高校の先生の力だけでは限界があるだろうと感じました。そういった観点から、いくつかのところでよく出てきている外部人材の活用について、さらに深い検討をしていただくのがよいと思いました。

2つ目ですが、情報処理に関する国の方針などの調査を行っているIPA（情報処理推進機構）という国の外郭団体によるレポートでは、これまでAIが非常に発達し、データセンターがどんどん大きくなり処理速度が上がっている中で、これまでにたまったテキストデータは、もうすでに来年あたりで解析しきるような感じになってきています。そのテキストデータが生み出されるのに比して、処理能力の方が逆転していくので、もうテキストデータの解析はすべて終わる状況です。その後で必要になってくるのは、リアルタイムにフローとして常にどんどん出続けるデータ、機械から常に発されるデータやAIの取り込みが非常に大事になってくるというのが、レポートとして出ていました。

そういうことを考えると、機械が集まる工業科でも、ぜひAIに関する教育を強めていただくのが、今後5年、10年にわたって機械から常に出続けるデータの処理やその対応をする人材の育成のためによいと思いました。

もう1つ、16ページの今後の進め方にある「(2) 入試制度の見直し」の「入試制度の検討」に関して、今年の今頃、石破前総理が検討を指示されたデジタル併願制についていろいろな調査が進んでおり、生徒へのアンケートなどの結果も出てきています。生徒へのアンケートでは、併願制に対して8割ぐらいの生徒が賛成という結果が出てきており、その詳細については、2月に東京大学が公表されると聞いています。結果が出ると、また他の県でもいろいろな検討が進むのではないかと考えています。他の県での状況も見ながら、そういった動きが加速するのであれば、富山県でも進めていくのがよいと思っています。

(委員)

9ページについて、中高一貫教育校のポツ1つ目「設置を目指す」と、国際バカロレア認定校のポツ2つ目「中高一貫教育校の検討も行う」は、恐らく時期的にずれと思うのですが、最大2つの中高一貫教育校ができる可能性があるので、設置を目指す、検討を行うということで、所属教育委員会や中学校、小学校の校長会等と丁寧に検討いただければと思います。

また、それに関連して、16ページの「今後の進め方」の一番下の「中高一貫教育校の選抜方法の研究・検討」で、「中学校・高校等の関係者と協議しながら検討を進める」とありますが、選抜して中学校に入学させるので、小学校の関係者もこの中に入れていただければと思います。小学校でどのような教育をしているのか、その県立中高一貫教育校はどのような人材を求めているのかということ踏まえることや、求める人材について小学校へ広報することなどが必要だと思うので、是非とも小学校の関係者を入れていただければと思います。

(委員)

こちらの実施方針ですが、これまでの2年間の議論を通じて、各ステークホルダーの皆さんの様々な意見が集約されて、少なくとも最大公約数的なものに仕上がったのではないかと考えており、これでよいと思います。

私からも毎回申し上げていますが、少子化、人口減少への対応や時代の変化に合わせた多様な選択肢の提示、教員の皆様の働き方改革が必要だと思います。また、これからの限られた予算の中で、そろそろ政治的、行政的に決断をする時期ではないかと思っています。先ほど同窓会の話もありましたが、1期、2期、3期の具体的な再編計画案をそろそろ定めて、各校のバイネームの議論、そこから必要となる調整に入るべきタイミングだと思います。拙速は避ける、しっかりと議論というのはわかりますが、今世の中では、今後高校生になるα世代がどんな価値観や判断基準、行動様式を持っているのか、民間企業は次のマーケットに向けて大きく舵を切っています。時間をかけて議論して、いいものができるかという、陳腐化してしまって実現する頃にはかなり古いものになってしまうと思いますし、まさにα世代が今度、新時代とやまハイスクールに入学されるわけなので、むしろ先取りするぐらいの気概、スピード感が本来的には要るのではないかと思っています。この議論はまた別の関係も整理する必要があると考えており、もう6年近く議論がされていますので、そろそろ具体案に入ってもよいと思います。

(委員)

資料がとても具体的になってきており、期待がだんだん大きくなっています。バランスよく学校の配置が考えられていて、多様なニーズに応える形で学校が配置されていると感じました。

「誰一人取り残さない教育」というのは言葉では簡単ですが、本当に難しいことだと思いますので、ぜひこれを現実にしていただきたいと思います。

先ほどからAIという言葉が何度も出ていますが、家庭や仕事、職場の中でもAIを使う機会が増え、一体人間にできることは何なのかを考える機会が大変多くなってきました。そうした課題も増えてきており、変化が避けられない状況の中で、大きく舵を切っていくことを本当に期待しています。

その中で、この案が「羅針盤」と表現されている点も、とても良いことだと思っています。例えば4ページにプログラミングの話が出てきますが、現在はAIの力によって、プログラミングもほとんど人間が行わなくてよい状況になってきています。自分の言葉で入力することで、実際に使えるレベルにまできており、そうした非常に速い変化の中では、「こうでなければならぬ」という考え方は、かえって子どもたちの機会を奪ってしまうことにもなりかねません。だからこそ、羅針盤として柔軟に運用していくことが大切だと感じています。

もう一つ、これを実際に動かしていくにあたっては、中学校におけるキャリア教育が、より一層重要になってくると思います。14、15歳の子どもたちが、多くの選択肢の中から何を選び、自分の人生につなげていくのかを考えることは非常に大変なことだと思いますが、そこで一定の決定をし、ある程度道を作っていくこととなります。そのため、子どもたちに対して十分なキャリア教育の機会を設けていただければと思います。

同時に、保護者の理解も非常に大切になってくると感じています。保護者の価値観が、新しい時代の流れに追いついていない部分も多々あると思います。その中で、子どもたちの伸びしろを大人の価値観で否定し、そこで止めてしまわないようにするためにも、時代の変化や価値観の多様性を、保護者自身が緩やかに受け入れていけること、また不安を払拭していけることが必要だと思います。学校と保護者が一緒に取り組んでいく、そのような相補的な関わりについても、ぜひご検討いただければと思います。

(委員)

皆さん仰られた通り、大変素晴らしくまとまっていると思うので、特に申し上げることはないのですが、いくつかお願いをしたいことがあります。

まず1つ目は、3、4ページのスタンダードについて、学校の数が減る中にこれだけの学校を設置する場合、子どもたちがそこに行きたいと思ったときに、本当に通える環境を作っていけるのかということは、もう少し考えていただきたい。どの地域にいる子どもたちも、どの選択肢でも選べるような学校の設置について、設置場所を考えていただくことは大事だと思っています。特に、新川の東の端の辺りについて、どうしてもそこが富山と一緒ということになれば、いろいろな問題点があると感じています。

また、先ほども外部人材の話が出ていましたが、工業系や職業系の学科の子どもたちをどういうふうに育てていくのかということは非常に大事だということです。教員の働き方や新しいことを教える先生をどう確保して、どうやっていくのかを考えたときに、各業界団体の協力を得る必要があると思います。

それから外国人材の話が出ていますが、これは非常に大きな問題だと思っています。以前もお話したと思いますが、エンジニアは子どもを富山に連れて行きたいけれど、富山に教える学校がないから名古屋に行きますと言って会社を辞めていくということが事実としてあると聞いていますし、実際に我々も言われたことがあるので、外国人材のための教育環境はどうしても必要だと思っています。

これから人口減少の中で、もちろん子どもを育てることも大事ですが、そういう人材にも頼る中で、その環境を整えてあげることは必要だと思っています。

先ほども同窓会の話が出ましたが、18ページの一番最後のところに書かれている「各期の設置方針の公表後に関係者の意見をお聞きする」ということは大変大事な言葉だと思います。設置前にいろいろなことが出てくるかもしれませんが、そこではなくて、設置することを決めてから同窓会の意見を聞いていくことは非常に大事だと思っています。

(委員)

これまでの議論を振り返ると、別紙の最初のところに書かれている「こどもまんなか」の視点というのを大変大事にされてきたと思います。その中で、今回「はじめに」で、「高校教育改革に関するグランドデザイン 2040」の言及があります。このグランドデザインで示されている3つの方向性の中で、おそらく政府としては2番目の理数系人材など「社会経済の発展を支える人材育成」にかなり重点を置いていると思います。それは、もちろん非常に大事なことですが、場合によっては、我々が大事にしてきた「こどもまんなか」ということから少し離れていってしまう危険性があると強く感じました。

最初の大前提だということで、あえて強く打ち出す必要はないというご判断だったのかもしれませんが、これまでの議論の中で、子どもと保護者が行きたいと思う、選ばれる学校づくりが大事にされてきたと思っており、その点をぶれずに全面的に提供することが必要だと思います。

もちろん高校教育というのは、これからの我々の社会にとっての人材育成という重要な使命もありますが、一人一人の子どもにとってはこれからの自分の未来を切り拓いていく非常に大事な時期となります。先ほど別の委員からのご発言にもありましたが、あまり我々の枠を強く打ち出しすぎると、結局この「こどもまんなか」の視点から外れていってしまうことになりかねないということを少し危惧しています。「こどもまんなか」ということ、子どもにとって、保護者にとって行きたいと思える、選ばれる学校づくりというこれまでの議論で大事にしてきたことも、もう少し鮮明に最初の「はじめに」のところで入れていただければと思いました。

(委員)

内容は非常に上手くまとまっていると思います。ただ、この後これを実現するためには、教育課程をどうしていくかということが重要になりますし、もっと細かく言えば、どういう科目を新たに作っていくのかということになると思います。そのあたりの研究が、今後必要になってきて、そこがうまくいかないと、この計画も進んでいかない。もちろん大枠で、大規模とか小規模とか中規模ということも大事なのですが、それだけでは駄目なので、その後どうしていくのかということは、すでに各学校が研究をし始めないと駄目なのではないかと思います。

(委員)

私もこの実施方針案のままで良いと思います。いろいろなところから意見を吸い上げられて、それに対して丁寧に議論、検討を重ねられ、本当に丁寧にまとめられた実施方針ができ上がったと感じています。

先日、先ほどから話題に出ている若手教員の「これからの高校教育を考える会」の提言を伺う会に参加しましたが、各教員の方々が自分事として、これからの改革について、非常にワクワクとした期待とともに、これからの教育を考えておられる姿を拝見させていただき、とてもよかったな、大いに期待ができるなと感じました。

その中でも触れられていましたし、私自身もずっと思っているのですが、今回の高校再編は、富山県全体の教育構造の改革のスタートと捉えてよいと思います。そうすると、本当に、あらゆる世代の県民の方々に再編に関する情報を周知して、子どもの未来だけではなく、富山の未来を考えていただける機会になって欲しい、ずっと関心を持っていただきたいと思っています。

県民の方々は、どの高校がどの場所に残るか、どこに大規模校が建つのか、そういうことについてはとても興味・関心を寄せられるのですが、来年度から取りかかっているかなければならない入試制度の見直しや活力ある学校、組織づくりについても同じぐらいの熱量の期待と関心で議論が展開できるか。ここをしっかりと私たちも勉強し、全国ではどうなのかや、先ほどデジタル併願制についてのお話もありましたが、入試制度の見直しはデジ

タル併願の考え方だけでよいのか、他にも考え方があるのかということも勉強しながら、こちらもしっかりと丁寧に議論していければ良いと思いました。

(委員)

案全体に関しては、すごくまとまっていると思います。

このままの記載でもいいかもしれませんが、細かいところで気になったところが、まず9ページの中高一貫教育校です。「STEAM」について前にも議論があったかもしれませんが、内容をいろいろ検討していく中で、「STEAM」だけで果たしていいのかが気になりました。例えば「グローバル」みたいなものと合わせて履修するなど、この後の学習指導要領の改定に絡んで、今後の教育課程編成のいろいろな新しい考え方が出てきていますし、小中学校では、かなり柔軟化が進む形が見えてきています。そういう動きをうまく使うと、例えば、かなり単位を早めに取りさせて、留学に1年行って来るとか、単位の読み替えはもちろんです。必ずしもすべてというわけではないので、そういった発想でもつくれるのかなと思いました。

それから、複数キャンパス制が書いてありますが、これを残しておくことは気になりました。

あと1点、さきほど数字を出すか出さないかという話もありましたが、14ページの下側にある各期の姿について、これだけを見た人が、どこにどの学校なのかみたいな話になるのかなと思いました。数だけが減っていくことに関して、かなりいろいろご意見をお持ちの一般の方がいらっしゃいますが、11年ごろ、15年ごろ、20年ごろの生徒数を示して、どれぐらい子どもの数が減っていくのかを一緒に記載しておけば、これぐらいの形でまとめていかないといけないとご理解いただけるのではないかと思います。このことについては、必ずそうすべきということではありませんが、最後のところだけを見てまた同じ議論が始まってほしくないと思いました。

(委員)

先ほどもありましたが、「こどもまんなか」が1番大きなキーワードだと思っています。私は、教育の目的は、すべての子どもがよりよく生きるためのものだろうと思います。では、よりよく生きるとはどういうことかと言うと、社会に出て生活していけることだと思っています。だから、生活していける力をつけていくことが、教育の究極の目的であり、それはまさに「こどもまんなか」に捉えていくポイントだと思っています。

今回、この実施方針が出ましたが、これまで6回の議論を重ねてきました。議論を重ねれば重ねるだけ意見が出てきます。その意見をとにかく包含して作ったのがこの実施方針だと思っています。そういう意味では、使い方としては「オプション集」だと思っています。この通りに行くことは絶対あり得ないわけで、時代も当然変化していきますし、その都度最適なものをその時の決定者が決定していくためのオプションとして、これだけのことがありますよということだと思っています。まさに羅針盤だと思っているので、そういった意味では非常に使い勝手のいい実施方針になったと思います。

文科省のグランドデザインに、AIに代替されない能力という話が出ていますが、能力なるものはすべて代替されます。AIが唯一できないのは良識を持つことです。AIは意

識を持っていないので、良い悪いの判断ができません。良い悪いというのは、人間社会の中において、慣例的かつ道徳的に決められる判断なので、絶対にAIにはできないわけです。だから「こどもまんなか」の視点に立つときは、このようなことも考慮したオプション集も必要になるのだらうと思います。いずれにせよこの後は、どうやって、それぞれの期で大事な決定を下していくかということの方が重要だと思います。

(委員)

私も他の委員の方と同じで、非常によくまとまっていると思います。特に3、4ページがすごく分厚くなっており、これは大変だと思いました。他の委員の方も言われたように、これだけのことを提供しようと思うと、本当に先生方にたくさん勉強していただかなくてはいけないので、人数のことや研修期間中の代わりの先生など、随分と準備が必要になると思いました。若手の先生方も提言書に書いてくださっていたように、まさしくこの方針はワクワクするものになっていると思いました。

(委員)

高校再編は本当にいろいろな意見があり、いろいろな立ち位置の方がいろいろな話をされます。その中で、事務局中心に非常に多くの話をされて、我々もたくさん会議を重ね、そうやってまとめてできたのが、この実施方針だと思っています。ありがたいことだと思っています。

世の中は今思っている以上に速くいろいろなことが動くだらうと思います。実施の方針ですので、例えば規模のことや配置のことなど、いろいろなことが書かれていますが、今後の様々な変化を踏まえて、さらに議論を深めていく部分はきっとあると思います。

ただし、例えば2ページにある「基本目標」や「基本とする考え方」についてはぶれないで欲しいと思います。例えば、どこかをなくしてどこかを残すということではなくて、すべての県立高校を再構築するという思いや、これからを生きる子どもたちをどうするか、そのための改革になるということ、子どもの数は減っていきますが、多様な選択肢は残しておく、提供することを忘れないでおこうということが書かれています。このてっぺんにある目標だけはぶらさないで欲しいと思います。

高校の教員が集まる会に毎回出ていました。これまで8回会議を行い、高校教員の集団を見ていて印象に残っていることを3つご紹介します。

1つ目。県立高校の教員はとても心配をしています。それは、このままの状態が暫く続くと、県立高校がもっと衰退するのではないか、中学生から選ばれなくなるのではないか、そのような声が多数ありました。再編は待ったなし。特に第1期の再編でどんな魅力を示せるかがポイントです。

2つ目。新しい学校づくりは、勿論、規模や配置などの形も大事ですが、中身が一番大事です。これまでも既存校を再編整備して新しい学校にするという意識でやってきましたが、前の学校のイメージが非常に大きく影響しました。その1番の要因は、教員が残っているからです。学校の中身を大きく変える時には、そこで支える教員の意識も非常に大事で、そういったことも会議では多く話題にあがっていました。新しい学校には、新しい学びや選択肢を求めた新しい生徒が入ってきます。その上で大事なものは、それを支える教員

の存在です。

3つ目。教育と言うと、学校教育をすぐにイメージされますが、教育は学校教育だけではありません。家庭教育があり、学校教育があり、社会教育があります。今議論したのは県立高校の3年間。人は生涯学び続ける存在で、その中の3年間のことを議論していますが、高校再編の議論は、もちろん家庭教育にも、特に中学校教育なのかもしれませんが、義務教育にも影響しますし、高等教育や社会にも大きく影響します。その繋がりの部分であることだけは忘れず、議論をさらに進めていただければと思います。

(委員)

一通り委員の皆様からご意見をいただきました。最後に、新田知事から一言お願いいたします。

(知事)

委員の皆様ありがとうございました。

「新時代とやまハイスクール構想」という、富山県の長い教育の歴史の中でも、かなり斬新で、かなり大胆な構想ですが、これについて今日で7回目の会議となりました。議論を重ねていただいたことに何よりも感謝申しあげたいと思います。そして、この会議の議論を経て、地域を回ったり、いろいろな各界各層の方々のご意見を丁寧に伺ってまいりました。そして、必要とあれば、柔軟に軌道修正も行ってきました。そうやってこの構想を皆さんと共に磨き上げてきて、今日まで漕ぎ着けたと理解をしています。本当にありがとうございました。

今後は、総合教育会議でこの実施方針を策定させていただき、それに基づいて、第1期の設置の方針、あるいは設置計画といった具体的な議論に入っていくこととなります。引き続き、よろしくお願いいたします。

また、何人かの委員からお話が出ましたが、「新時代とやまハイスクール構想」に相応しいデジタル併願制を含めた入試制度のあり方についても議論が必要な時期にもなってきたと考えています。

いずれにしても、構想の実現に向けて、これからもぶれずにしっかりと取り組んでまいりたいと思いますので、引き続きご協力をよろしくお願いいたします。

5 閉会

12時00分、司会が閉会を宣した。